

こうふ町 議会だより

町勢

世帯数/1,171世帯
人口/3,832人
(平成18年2月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



無病息災を願って

(佐川地内)

一般会計	4,764万円増額	2 P
一般質問	町政を問う	4 P
町内事務調査報告・地方行政調査報告		7 P
特別委員会		11 P

12月 定例会



昭和38年以來の大雪 (大河原)

一般会計4764万円増額 予算総額45億9799万円に

平成17年12月定例会は15日に招集され会期を12月21日までの7日間と定めて開かれた。

今回の定例会には、平成17年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算職員給与条列の一部改正企業誘致用地の取得、町道認定、介護老人保健施設あやめの工事変更契約備品購入事業等17議案が提出された。

議会では慎重に審議し、いずれも原案のとおり可決した。

18日の本会議では3名の議員が一般質問に立ち、活発な議論がかわされた。なお本会期中の傍聴者は6名でした。

特別会計

国民健康保険特別会計

(事業勘定)

126万円を追加
医療費分析委託料の増、
他会計繰出金の減による。

国民健康保険特別会計

(施設勘定)

105万円減額
医療事務委託料増。給
料の減、義歯委託料増、
医療用手数料増額による。

老人保健特別会計

3678万円追加
医療給費負担金の増額
による。

介護保険事業特別会計

(保険事業勘定)

6万円の減額
保険料完納報償金の増
居宅介護サービス給付費
の増、施設介護サービス
給付費の減等による。

簡易水道事業特別会計

262万円追加
修繕料、配水管移転補
修工事の増額による。

農業集落排水事業

特別会計

203万円追加
移転補償工事の増。補
償費の増額による。



道路除雪 (笠原原地内)

補正予算

一般会計

平成17年度一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ4764万円増額し、予算総額を45億9799万円としました。

主な内容

880万円増額

住民情報システム更新に伴うリース料増額

民生費

1257万円増額

国民健康保険特別会計繰出金(基盤安定分)、障害者福祉事業費、老人保健特別会計繰出金等の増額

衛生費

273万円減額

検診委託料の減少。

農林水産業費

703万円増額

中山間地域直接支払制度交付金増のため。

土木費

695万円増額

除雪委託料増加

教育費

168万円増額

中学校屋上防水補修工事費のため。

災害復旧費

270万円増額

農業用施設災害復旧費(江尻頭首工)、公共土木災害復旧費(町道岩谷線土砂撤去)等のため。

予備費

1049万円増額

条例改正

江府町職員給与に関する条例の一部改正

職員の扶養手当及び医療職員の初任給調整手当の減額。

奥大山チロルの里交流センター設置及び管理に関する条例の廃止

町道路線の認定について

池の内4号線

俣野小学校前から源泉寺までの140mを認定。

柿原1号線

佐川柿原西成線から柿原活性化施設まで65mを認定。

請負契約

江府町介護老人保健施設あやめ新築工事請負変更契約の締結。

企業誘致用地の取得

笠原原地用地の取得

総面積

25万7064㎡

取得価格

3億4261万円

笠原工業団地用地の売買

相手方 サントリー(株)

金額 9億1271万円

臨時議会

平成17年11月14日

江府町国民健康保険の税条例の一部改正についての専決処分承認

江府町一般会計補正予算。

歳入歳出それぞれ、3000万円を追加し予算総額45億5034万円とした。内容は企業誘致造成設計委託料。

全て原案のとおり可決する。

一般質問



問 平成18年度予算編成と取組課題は

答 抜本的に見直し、効果ある編成をする

質問 予算編成の時期になりましたが、国、県、自治体ともに財政状況が厳しいことは今更申すまでもありません。借入金（元利償還金）が平成21年度にはピークを迎えます。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、5年連続して上昇し硬直が進んでおります。年々税収が縮減している中で、長期債務残高を抱え財政健全化は急務な課題です。このような中で予算編成方針、取組課題につき町長に伺う。

財政運営の健全化について 定住対策について

日野尾 優

町長答弁 平成18年度予算編成については将来の財政状況を認識し、より一層の歳出見直しをしなければならぬと考えております。従来の当初予算編成方法を抜本的に見直し、本年10月より各課において取り組み、十分な時間をかけて検討協議し、より効果ある予算編成をすることであります。また、事業においても前年度事業を踏襲するのみで終わらず、「ゼロからのスタート」として検討することといたします。その基本的事項としては、



ゼロからのスタート（予算査定）

- 一、行政内部の諸経費の一層の節減。
 - 二、住民のより「身近な行政」の推進を図る。
 - 三、子育て、学校教育環境の充実。
 - 四、地域の自立支援の検討。
 - 五、企業誘致対策の推進などと考えております。
- 今後の事業課題であります下水道整備、小学校統合等の財源を考え編成したいと存じます。

問 特別会計の情報公開は

答 公開し受益と負担の適正化を検討する

質問 特別会計はそれぞれの個別の目的をもって設置されているものの、決算内容がわかりにくい、受益と負担を明確化し町民に情報公開したかどうか町長に伺う。

町長答弁

特別会計は医療保険会計等14会計で、特に上下水道会計につきましては、財政健全化が一般会計の健全化に大きく影響いたしますと考えております。今後、会計内容を公開説明しながら使用料の適正化についてご理解を得なければならぬと考えております。

問 空き家対策と定住情報発信は

答 情報収集し各関係機関と連携し取組む

質問 少子高齢化の中で、若年層が町外に流出し、人口減少傾向が続く地域

活力の著しい低下が懸念されます。このような中で、誘致企業もあり定住対策のため住宅確保は必要であります。住宅整備について計画されておりませんが、あえて空き家対策につき、実態調査と定住情報発信について町長に伺う。

町長答弁

町外に出られて空き家となっているもの、新築されて古い家をそのまま残されておられるものなど合わせると、相当な数に上るのではないかと思われます。担当課の職員等で実態を把握しております。定住情報発信については、町と県の広報誌やホームページで空き家、休耕地を賃貸・販売したい所有者を募集し、希望者がありましたら、所有者と希望者の仲介を町が行っていきたい。いづれにしても、今後ますます増えていくことが予想されるため、町と県が連携して定住を促進し活性化を図る考えです。



問 財政見通しは

答 行財政改革を断行

質問 本町は自主自立を選択し、また町長も2年目の予算編成中と思うが先日、報告の財政推計では、厳しい状況にあるが町長の財政見直しとその建て直し策は。

町長答弁

財政の安定化に向けて、議会や町民会議、まちづくり委員会等に理解を得ながら適正な定員管理も含め、危機感を持って行財政改革を行い、ゼロから検討します。

財政見直しと重点政策及び住民説明について

上原 二郎

問 重点施策は

答 財政状況を勘案

質問 現在の大きな課題は小学校統合、庁舎建設、中学校の老朽化、下水道整備残などがあるが、具体的に何を優先させるのか。

町長答弁

庁舎建設は、将来の財政計画とあわせ、建設時期は検討している。



江尾小学校

小学校統合は、児童数が減少する中避けては通れないと考える。統合整備は、財政支出をできるだけ抑え、現有の施設を有効活用して給食センターを併設する江尾小が望ましいと考えるが、8月20人の江府町小学校統合検討委員会を設置し、鋭意審議中です。中学校の老朽化、校舎は昭和35年、体育館は昭和37年の建設であり移転改築の必要があると考え、国の補助金等財政状況を勘案しながら検討する。

問 住民説明会の開催は

答 全集落を対象に

質問 日野町が財政再建団体になるという報道がなされ、本町住民の心配や誘致企業の影響などについて今後のまちづくりは町民の協力が不可欠である。

行政の情報提供で同じ土俵で議論するのが重要と考えるが、住民説明会の開催は。

町長答弁

10月の町報から保育園の保育料、ごみの状況、下水道の状況等江府町の状況を積極的に公開している。財政の状況も公開し、全集落を対象に説明会の開催を計画している。



ふれあいデー (子供の国保育園遊ぎ室)



子育て支援について

越峠恵美子

問	乳幼児支援は
答	子育て支援センターを充実

質問 乳幼児教育の充実特に次世代育成に対する支援と具体的な取組みについてお尋ねします。子供は社会全体で守っていくべき宝物であり、心身ともに健やかに生まれ育てることが町民すべての

願いです。

平成23年には小学校入学児童が20人です、将来を危惧します。今や子育ての家庭を地域や社会全体でケアしていく事が望まれます。幼児教育の充実・次世代育成の支援と具体的な取組みについて伺う。

問	保育園の整備は
答	創意工夫で

町長答弁

将来を担う子供たちの育成は、大きな課題であり重点施策として対応する考えです。平成10年度に子供の国保育園内に子育て支援センターが設置されており、新年度から保育時間を延長するとともに、未就園児の親子のふれあいデーを週1回開催するなど、子育て支援の拠点としてきめ細かな支援を行ってまいります。新年度予算につきまして

も、子育て環境整備に重きを置きたいと考えます。

質問

子供の国保育園の特別保育事業の一つでもある子育て支援センターは、子育て相談、親子教室のほか園庭開放をし、

ふれあいデー等いろいろな取り組みをされています。施設は老朽化し、1町1園の保育園として特に危機管理体制が問われている昨今、施設の整備について伺う。

町長答弁

子育て支援センターを設置して、子育て相談等は事務室で実施しているが、支援室は益々必要で

問	出前保育は
答	訪問活動で対応

質問

出前保育について在宅育児支援を始めている自治体が増えていくと聞きますが、高齢者のヘルパー制度等があるように出前保育が出来ないか伺う。

町長答弁

本町の場合保育は、子供の国保育園に入園して頂くのを原則としていますので、出前保育は考えていません。子育て支援センターの中で、保育士、保健師が連携をとって出産後の訪問活動など考えていきたい。

あります。支援室の増設は既存の施設内で創意工夫する必要がある。新年度予算のなかで議論していきたい。

問	子育てサロンは
答	公共施設の活用

質問

少子化の時代、江府町のように人口が少ない町は、同世代の子供や子育ての仲間が近くにいません。防災センター一階で親子連れを見ますが、安心して集えるサロンの場所の開設ができないか伺う。

町長答弁

子供と親がいつでも集えるサロンの場所は防災情報センターであります。施設に機能的な諸問題が有ると思いますので、子供と親がいつでも集えるサロンの場所になるよう、施設的には山村開発センター等公共施設がございまして、関係者の意見を伺いながら、努力致します。

町内事務調査報告書

総務経済常任委員会

調査日 平成17年11月18日

行財政改革

町税の75%は中国電力(株) 俣野川発電所の固定資産税であり、毎年6%減少しており、収入の約3割をしめる地方交付税については、交付税額の算定の基礎となる人口等の減少が見込まれることや、国の三位一体の改革による見直しにより、交付税削減は必至であり、厳しい財政状況の中で、

どのように住民の要望に
応えていくのかが問われ
る。

第4次総合計画を早期
に策定し、施策の優先順
位を定め予算編成に反映
されたい。また、行財政
改革推進組織である、ま
ちづくり推進委員会、ま
ちづくり町民会議の協議
内容方法等十分検討され
ると同時に職員も真剣に
現在の状況を認識され、
限られた財源



関係者からの説明

の有効活用を
望むものであ
る。執行部の
指導力を最大
限発揮してい
ただき、町民
と一体となっ
て行財政改革
を推進してい
ただきたい。

グリーンステージ 氷工場

江府町として初となる

誘致企業は、敷地造成工
事、工場外観工事もほぼ
完了し、現在は内装・仕
上げの最盛期で、製造機
器の搬入・据付し1月末
に引渡し予定。試運転後
3月上旬に製造開始予定。
生産計画1日の製氷量48
t、製品の搬出量24t。
投資総額10億円、初年度
販売目標5億円。期待さ
れた雇用ですが4名(町
内1名)で現在研修中。
春6名採用内定、当工場
は12、15名配置体制であ
り、今後増設も計画され
ており、江府町とのかか
わり(雇用の地元優先、
物資の購入、商品の配送
等)をもっていたたくこ
とを切望する。工場の位
置は江府町の観光拠点工
場(バーランド奥大山の途上
にあり、景観にも恵まれ
ており観光の面からも期
待します。

庁舎建設

今後の財政推計を考慮
した場合、一般財源投入
は厳しい状況であり、P
FIなど民間資金を活用
する方法も検討され、提
示していただきたい。

サントリー株

誘致に伴う法手続き、
農業振興地域整備計画の
変更・農地転用手続きは
予定どおり年内終了、懸
案である水環境影響調査
を、すみやかに報告でき
るよう努力されたい。

介護老人保健施設

工期末が平成18年3月
24日であり進捗状況を調
査、工程表のとおり施工



完成間近の氷工場(御机地内)

されていた。

冬季期間の工事になる
ので、無事故で完成する
よう念願します。安全対
策等が充分配慮されてい
たことは評価できます。

企業誘致の税制

税の減免処置等適用に
なると考えるが、適切な
対応をされるとともに、
併せて町財政に貢献でき
る方法も検討されたい。

景観整備対応

町民体育館裏の銀杏並
木が紅葉シーズンには好
評であるので、社会福祉
協議会事務所裏の日野川
左岸の土手に、銀杏の木
植栽を検討されたい。

教育民生常任委員会

調査日 平成17年11月10日

江府町防災・情報センター

◎今期開設した当施設の管理運営について、教育委員会が運営していますが、場所的に町民が利用しやすい場所であることは良かった。

図書館について

◎オープンスペースで、子供や小さな子供を連れ、た親が気軽に立ち寄り、本に親しみやすく好評である。

しかし、図書費が他町の40%弱という低さです。図書の充実は是非しなければなりません。

◎2階の通路窓際に、読書するスペースがありますが、歩く人を気にしながらでの読書になってしまい不都合である。読書する場所の改善を望む。

◎町民のコミュニティの場所として、より一層の充実を図られる事を望む。

◎旧教育委員会、旧図書館の取扱いをしつかりと検討されたい。

江府中学校

◎築46年を経過し、校舎の改築も検討しなくてはならない時期に来ている。

1. 建築の専門家に建物の安全確認をして頂き、今後どうするのか検討しなければなりません。

2. 急を要する修繕、備品の購入については、速やかに教育委員会と協議し生徒の授業、学校生活に支障がないよう配慮されたい。

江府町介護老人保健施設「あやめ」新築工事

◎工事施工において周辺住民の方々への配慮をしていただきながら、今後にも安全に留意され、工事の完成を望みます。



防災情報センター図書コーナー

チロルの里特別養護老人ホームの運営状況について調査

◎施設会計運用状況

平成16年度の決算書をもとに説明を受けた。安定した経営をされていることを確認したが次のことを指摘改善されるよう求めた。

1. 入居者の診察、検診など地元の医療機関と連携を取り合って身近な施設として活用されたい。

2. 健全な経営をされている状況で、施設の駐車場、園庭の整備をされ利用者により良い施設づくりをされたい。

3. 地元の福祉施設として、江府町当局、町議会との意見交換会の実施を望む。



チロルの里特別養護老人ホームの運営状況調査

地方行政調査報告

調査期間 平成17年10月18日～20日

過疎地の小学校

統合について

長野県大桑村

視察の目的

平成21年を目標に町内4小学校の統合を目指すため、統合までの経過と統合後の状況について早くから統合に踏切った大桑村を調査する。

村の概要

大桑村は長野県の南西部に位置し、総面積234・5km²、耕地が2・61km²で96%が森林。村の中央部を木曾川が流れ、国道19号線、JR中央線が通っている。木材産業の衰退で人口4733人の過疎高齢化の村である。

統合までの経過

第三次総の標題「サンライズ（日の出・さらなる成長）」のとおり21世紀を担う子供達のため統合計画。

主な目的

切磋琢磨と基礎学力の

向上。

自己を確立し地区を愛する子供の育成。

新しい教育環境の実現
国際化と多様化の対応

建設場所の取り組み

教育環境の整った所であれば問題ない。
建設費と以後の運営費抑制。

地震等大災害の教訓から危機分散を行う。
住民とのふれあいの多い場所の選定。

特色

30kw太陽光発電パネルの設置。
移動収納観覧席。
ロッククライミングのできる擁壁。
蛍の住む中庭。

統合後の状況

教育の特区内で、全学年2学級体制にし教員給与は村費負担。

まとめ

生徒数240人と少数で、江府町によく似た学校である。

早くから村民の意見がまとまり、国・県の補助の受けやすい時期の建設である。国有、村有林の



大桑村立大桑小学校（蛍の住む中庭）

ヒノキを使用した木材校舎である。

一箇所集中をさげ自然災害に配した統合は大英断であるとともに、村民が心を一つにでき地域の活性化にもなっている。

江府町においても児童数の減少は、学校経営上の問題と子供自身にとつて基礎的な人間形成にも問題がある。

子供は町の宝、人づくりは町づくりである。21世紀に向けて成長する子供達の事を考える時、厳しい財政状況であるが統合に向けて更に前進しなければならぬ。

視察の目的

江府町に進出するサントリー天然水工場の概要と環境保全活動について調査する。

天然水白州工場の概要

所在地は山梨県北杜市白州町。工場周辺は南アルプスで山梨、長野、静岡にまたがる100kmの大自然で環境豊かな場所。ウイスキー・水工場の面積約83ha、大半がウイスキー工場の敷地。

水の生産量、2311万2000ケース、従業員サントリー159人、協力会社55人、運送関係協力会社48人、工場案内、警備、清掃、ウイスキー工場兼務協力会社72人。

環境保全活動と影響調査

地下水の水質保全のため中期森林保全計画に基づく植林・除伐。
森林への農薬散布の禁止揚水のため地元企業5社で協議会を設置し観測井戸での水位調査・白州町の地下水涵養調査実施。

サントリー天然水 白州工場について 山梨県北杜市

地方行政調査報告

住宅状況は

従業員の90%が周辺市町村の出身である。その他は転勤者を含め、県外出身者で社宅に居住している。

環境を大切にすためか水工場進出に伴い関連産業の工場進出はない。

まとめ

南アルプスの広大で自然豊かな環境の良い工場である。

特に自然を大切にすため森林保全に努め、地下水の恵みを受けている。



サントリー天然水白州工場

江府町の規模は白州工場の周辺より狭いが環境景色においては決して見劣りはしない。

環境に対する影響等の調査を行い早く関係住民に資料を公開しなければならぬ。

平成20年創業予定で、雇用も80〜90人が地元雇用であり期待する。今後企業と江府町が協調し、町はもちろんん県西部に経済効果と活性化が進むようにはしなければならぬと考える。

陳情の結果

提出のあった陳情を常任委員会で審査し、委員長の報告を受け12月定例議会本会議で審査した結果、次のとおり決定しました。

件名	審議結果
WTO・FTA交渉に関する陳情書	趣旨採択
「食料・農業・農村基本計画」見直しに関する陳情書	不採択
鳥取県「人権侵害救済条例」の修正凍結を求める陳情書	不採択
安心できる介護保険制度を求める陳情	趣旨採択
介護保険利用者の食費・居住費の補助制度を求める陳情	趣旨採択
患者・国民負担増計画を中止し「保険で安心してかかる医療」を求める意見書採択陳情	趣旨採択
庶民大増税に反対する陳情	不採択
障害者自立支援法に関する要望についての意見書を求める陳情	趣旨採択
次世代育成支援策・保育施設の推進に関わる国の予算の拡充と民間保育所運営費・施設整備費の一般財源化の中止を求める意見書提出を求める陳情	趣旨採択
義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書	趣旨採択

企業誘致調査特別委員会

平成17年12月19日

第2回

特別委員会開催

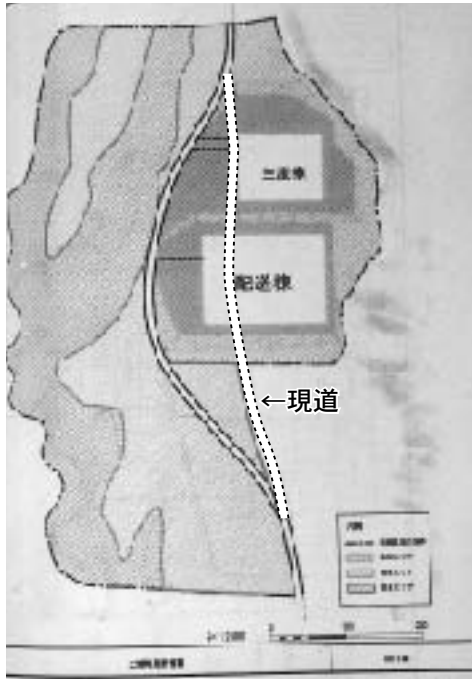
町長のあいさつに続き伊藤助役より今後の計画等について説明があった。

水環境影響評価委員会(仮称)の設置

県、町、サントリーの三者が評価委員会を組織して、それぞれの調査結果を持ち寄り公開で議論する。

○委員会の構成

鳥取大学、島根大学か



土地利用計画図 (広域農道付け替え計画)

ら水理学、地質学の専門家6名

幹事

サントリー、江府町、鳥取県

○今後の予定

17年12月中旬
第1回幹事会の開催
18年1月下旬
第1回評価委員会の開催

この委員会の任務は平成20年春の工場操業までに検討委員会において地下水への影響等について検討結果の報告を行う。工場操業後も地下水位の

継続調査を実施する。

水源涵養等の取組

○工場敷地内での地下水の保全

○工場上流部における水源涵養エリアの設置・保全

○環境保全活動の積極的な展開

サントリーと

連携した地域振興

○地元企業との連携

○鳥取県のイメージアップ

○文化・スポーツの振興

介護老人保健施設 庁舎建設調査特別委員会

平成17年12月19日

第3回

特別委員会開催

前回までの確認事項

負担金について

1. 日野病院事業等会計及び介護老人保健施設事業会計は、それぞれの会計ごとに決算を行い、単年度資金収支額(資金ベース)で、黒字が生じた場合は、会計ごとに基金積み立てを行い将来の退職金手当等に備えるものとし、赤字が生じた場合は、それぞれの割合により負担する。

負担割合は

江府町負担 (90%)

日野町負担 (10%)

2. 開設当初においては、介護老人保健施設事業に赤字が生じることが予想されることから、当初の赤字については江府町が無利子の貸し付けを日野病院組合に対して行い、日野病院組合は本町に償還を行うものとする。

備品購入

状況について

高額医療備品の購入について品目、設計額、指名業者の選定など説明を受ける。

- ◎ 医療リハビリ機器
- ◎ 特殊浴槽
- ◎ ベット
- ◎ リフト付きワゴン車

指名競争入札に町内の業者が入っていないのはなぜか。

経済が冷え込んでいる状況で、できるものは地元を利用するように議会も提案している。

今後の指名業者選定等に際しては、執行部内で検討し商工会等にも聞きながら対処する事を指摘した。

ひびき



尾上原 中尾由美子

身近な 声かけから

私が江府町で暮らすようになって10年余りになります。それまでは、転勤の多い夫と共に山陰各地で生活していましたが、今ではすっかり江府町に馴染み、日野郡の生まれ育ちではないかと思われる程です。関西で育った私にとって、最初は言葉や気候風土に慣れず戸惑うこともありましたが、やはり、子供を育てる頃その土地にとけこむよう努力してきたように思います。

今、子供を取り巻く事件が多発しています。子育て真っ最中のお母さん方は不安を抱いておられるでしょうが、私は子供達を地域で育ててもらったと思っています。どこの

地でも周りに同じ年頃の子供さんがいて、そのお母さん達、時にはおじいさんもありましたが、親子で仲よくなりました。今のお母さんは、ママ友と呼んでお互いコミュニケーションもよく、メールで相談したり、情報交換しているそうです。子供に限らず、お年寄り特に一人暮らしの多い町内では、気軽に声をかけ合っていく事は大切だと思います。

それから私は特産市”みちくさ”に当番をして月に一回位で出ています。ここでは江府町内と町外のお客さんとの交流があります。遠くは松江方面、岡山、広島、関西からも来られて、江府町の良さを知ってもらうのにはいい施設です。豊かな自然の中で育った野菜や特産品をもっとアピールしていけたらと考えます。

ふるさと江府から遠く離れた石見の地で二度目の新年を迎えました。会社の転勤により、現在浜田で単身生活を送っていますが、ふるさとを離れてあらためて「ふるさとへの想い」を強くしています。

さて、「平成の大合併」により全国の市町村数は今年3月末には3232から44%減り1821になりました。財政難など直面する課題に対応するため、そして地方分権の「受け皿」となる市町村の力を高めるため政府は7年前の1999年4月、合併自治体を財政支援する「市町村合併特例法」を施行しました。合併しなければ地方交付税が減額になるため、(真意は定かではありませんが)合併に踏み切った市町村も相次ぎました。この結果、今年3月末までに557の新市町村が誕生。鳥取県も39市町村が19市町村に集約されました。その中で、「江府町」含めた9市町村は「単独」行政の継続を選択しました。

「ふるさとを想う」

しかし、「自立の道」を選択したのは、多くの町民であることを私たちが決して忘れてはなりません。



南葉健一
小江尾立「自立」と、盛ん

に地域の自立という言葉が使われています。「自立」とは何か。そんな疑問にもぶつかりますが、一つには「地域が持続可能な仕組みを自ら持つこと」だと思います。

昨年末、厚生労働省が発表した推計によると、日本は人口減少社会に突入したことが明らかとなりました。江府町も例外ではありません。すでに江府町は、「過疎や少子高齢化の道」を歩んでいるのです。そして、厳しい財政状況の中で将来に希望の持てる町づくりを推し進めていかなければなりません。今春、完成予定の「老人保健施設あやめ」や「水工場」、そして2008年春、操業予定の「サントリ」など明るい話題もありますが、「ふるさと江府町」には誇れる「人と自然」がいっぱいあります。

今後の町行政に望むことは、この自治体がかつても同じ業務は県がすべきであり、町は福祉や教育など特色の出せるものに特化し、国と県、市町村の三層構造のあり方を根底から考えていただきたいと思えます。

いづれにしても「自立の道」を歩むからには、私たち町民も「誇りと一体感」を持ち続け、そして「生き生きと生きる」地域づくりを進めていかなければなりません。「ナンバーワン」でなくても、他にない日本唯一の「オンリーワン」である「奥大山チロルの里・江府町」の未来を築くためにも…。

あとがき

新年あけましておめでと
うございます。

▼昨年は尼崎脱線事故、耐震強度偽装事件など、これの共通点は、利益追求に要因があるのではないか。暖冬予想がはずれ大雪には困惑している状況です。

▼今年誘致企業グリーンステージ水工場3月操業、介護老人保健施設あやめ)6月開設、また、サントリは20年春の稼働に向け諸手続きも順調に進行しております。明るい迎春です。

▼夢と希望のもてる、安心、安全、活力ある町づくりに頑張ります。

▼議会だより編集委員は本年も住民皆様に親しみと関心をもって頂ける紙面づくりに努力します。

日野尾 優

議会広報調査特別委員会

- 委員長 池田成弘
- 副委員長 川上富夫
- 委員 田中幹啓
- 委員 日野尾優
- 委員 長岡邦一